

平成25年度 指定管理施設の管理運営評価表

担当室 高齢・障害支援室

※市民の方に概要がわかるよう、必要に応じて、枠を広げて記載してください。

1 管理運営の状況等

(1)施設名	名張市老人福祉センター「ふれあい」
(2)指定管理者 (名称、所在地)	社会福祉法人 名張市社会福祉協議会 名張市丸之内 79番地
(3)施設の利用実績 (利用者数、事業内容等)	平成25年度 年間延べ利用者数 18,937人 開館日数 300日
(4)市支出額	指定管理料 : 21,300,000 円
(5)管理運営の状況	①管理施設の管理運営に関する業務 ②生きがい活動、趣味活動、日常訓練及び入浴に関する業務 ③福祉バスの運行管理に関する業務 ④管理施設の設備及び備品の管理に関する業務 ⑤保健及び福祉等の関係機関との連携

2 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
平等利用の確保、利用者サービス向上の取組	(1)利用者の平等な利用の確保 ○地区割りによる曜日指定利用を原則としながらも、利用者の利便性を確保し可能な限り利用していただけるよう、利用曜日の変更にも気軽に対応しています。 ○地区割りによる曜日指定利用について、利用制限のある中でも最大限利用していただける方法についての説明を丁寧に行い、利用日の変更だけでなく各種サークル活動や土曜日等でのイベント情報などを提供しています。 ○多くの市民の方に施設利用をしていただくための広報啓発活動を広く行いました。 ・高齢障害支援室に協力いただき、介護保険証の新規発行・発送する時にセンター利用案内を同封していただき、65歳以上の方に漏れなく施設利用案内を配布しました。 ・社協広報「ほほえみ」(「YOU」)に利用案内や施設行事案内や参加者募集情報を掲載し、広く市民に周知しました。 ・チラシ・パンフレットを新たに作成し、地域包括支援センター・まちの保健室、各地区民生委員児童委員協議会といった高齢者支援機関・団体に配布し、利用対象者への周知を図りました。 ・市庁内動画モニターで、利用案内を放映し周知しました。 ・また、アドバンスコープ番組「健康と生活」ないで、利用案内を放映し周知を図りました。 ○施設内の限られた機器や設備を公平に利用して頂けるよう対応しています。 (例)・人気のあるカラオケでは、早い者勝ちではなく、くじで順番を決め時間内での利用を促しています。 ・ヘルストロンやマッサージ機器についても独り占めするようなことがないよう、張り紙や声かけなどを行い、お互いが気持ちよく利用できるよう目を配り対応しています。 ○自主的なサークル活動をより活性化するため、利用日程・活動場所の調整を行いました。 ※ローテーションで勤務するしていますが、職員による対応の齟齬が生じないよう、申し送りを徹底し対応しています。
	(2)障害者・高齢者等への配慮 老人福祉センター「ふれあい」は、老人福祉法に則る社会福祉施設であり、65歳以上の高齢者はもちろんのこと、土曜日には障害者の方も利用できることから、安心・安全な利用ができるよう対応しています。 利用者の平均年齢は高くなっており、足腰に不安がある方、物忘れがある方など、利用時も見守りが必要となる方も少なくない状況です。 【入館時】 ・福祉バス乗降時に転倒しないよう、安全のため、ステップ出し・声かけ・介助等を行っています。あわせて忘れ物のチェックも行っています。 ・受付時での声かけを行い、必要に応じた相談の対応をしています。 【施設利用時】 ・施設内の見回りを行っています。特に入浴時及び入浴後に体調不良を訴えることもあるため、浴室・脱衣室については必ず30分ごとの見回りを実施しています。利用者の状況によってはより頻回にしたり、また浴室利用についての抑制を促すなどの対応により、事故を未然に防ぐようにしています。浴室での体調不良者が7名あり、6名を救急搬送し、内1人は、心肺停止の状態に倒れAEDを使用した対応が必要でした。 ・浴室利用時に限らず、体調不良を訴える方(又は体調の悪そうな方)や普段の様子と違う方(元気がない方)等に対して、声かけ・相談、バイタルチェックを行い、本人同意のもと家族や専門機関への連絡調整・情報提供を行っています。状況によっては連携し継続的な見守りを行っています。浴室以外でも体調不良を訴えられた利用者1名を救急搬送しました。

平等利用の確保、利用者サービス向上の取組

【利用環境】 ・シルバーカー、歩行器、車椅子等を設置し、必要に応じ活用してもらっています。 ・介護や付添が必要な方の利用促進のため、介護者や付添者の利用料金減免を行っています。 ・AEDを設置しており、急変時の対応に備えています。 ・総合福祉センターふれあいの消防訓練に参画し、非常時の避難誘導訓練を行っています。 ・受付に職員が常駐し、利用料の徴収を行ない、円滑に利用が出来るようにしています。また、受付場所に血圧測定器を置き、血圧測定を通して気軽にくらしの不安、健康の相談ができるようにしています。 ・利用者の意見をきけるように意見箱を設置しています。また、職員は日常的に意見をきくように努めています。 ・事業実施後にアンケートを行い意見をきい、て次の計画につなげています ・利用者の方が可能な限り、現金を持ち歩くことを少なくするために回数券をカード化した「ふれあいカード」の利用済みのものを応募券として、月1回「お楽しみ抽選会」を行い、当選者には、1日無料利用券を発行しています。 ・センター利用の多くの方が活用される福祉バスの発着時の対応として、バス乗降時の段差に対応するため、段差解消のステップを活用し、職員が乗降時に見守りや必要に応じて介助を実施しています。また、福祉バスについて、優先的にノンステップバスの走行がされています。また、帰宅時のバスについては事前にアナウンスを入れることはもちろんのこと、乗り遅れてしまう方がないように、施設内の確認と声かけを実施しました。 ・利用者の買い物や昼食のお弁当の持参に対応して、食品の保存のため冷蔵庫の利用ができるようにしています。 ・湯茶(恩茶・冷茶)、温湯を提供し、自由に利用できるようにしています。食事時や友人との談笑時に利用や水分補給に利用されています。 ・利用者が衛生的に施設や備品が使用できるように、清潔の保持に努めています。	
(1)啓発 ○多くの市民の方に施設利用をしていただくための広報啓発活動を広く行いました。 ・高齢障害支援室に協力いただき、介護保険証の新規発行・発送する時にセンター利用案内を同封していただき、65歳以上の方に漏れなく施設利用案内を配布しました。 ・社協広報「ほほえみ」(「YOU」)に利用案内や施設行事案内や参加者募集情報を掲載し、広く市民に周知しました。 ・チラシ・パンフレットを新たに作成し、地域包括支援センター・まちの保健室、各地区民生委員児童委員協議会といった高齢者支援機関・団体に配布し、利用対象者への周知を図りました。 ・市庁内の動画モニターで利用案内を行ない、周知を行いました。 ・アドバンスコープ番組「健康と生活」のなかで、利用案内や施設紹介を行ないました。 ・社会福祉協議会広報誌「ほほえみ」やホームページへ事業案内や各種教室の案内、参加者募集を掲載しました。地区民生児童委員協議会、まちの保健室などに参加者募集チラシを配布しました。	
(2)生きがい活動支援通所事業	
生活相談	受付等にて、随時利用者のくらしの不安等の相談に応じました。
ふれあい交番	月1回警察官による地域防犯や交通安全に関する講話を実施しました。
「替わり風呂の日」	月1回(4月・8月・12月は1週間)入浴剤等で、「替わり湯」を実施しました。
映画会	月1回(月～土)映画などの上映を行いました。
各種発表会	利用者の発表と交流の場を提供し、楽しみや生きがいに繋がるように実施しました。開催にあたっては、利用者の方やボランティアの方の協力により実施しました。
	ビリヤード大会(3回)
	デュエットカラオケ大会
	七タカラオケ大会
	新春カラオケ大会
	芸能発表会とバトン&スポーツ少年団演技披露
	作品発表会
	お茶会
じゃんけん大会(新)	クリスマス月に、日頃の利用に感謝の意味を込めて、利用者全員でじゃんけんを行ない、無料利用券、ふれあいカードをプレゼントしました。

平等利用の確保、利用者サービス向上の取組

(3)各種自主サークル活動への支援

・センターが実施した講座等をきっかけにしたものや、ボランティアの方が主体的にかかわりながら発生したサークルや2次予防事業修了生が始めたサークルや日常の利用者が主になり始めたサークル活動を支援しました。

カラオケ教室

ふれあいハーモニー（コーラス）

いきいき書道クラブ（漢字）

いきいき書道クラブ（かな）

茶道教室

ながつきの友（茶道）

ビリヤード教室

ものづくり

ぱりぱりサークル

・サークル生の活動意欲につながるように、発表会を行いました。

※サークルの中には、ボランティアとして他の福祉施設への訪問活動を実施されているものもあります。

※延183回、延1,480人が活動されました。

(4)地域活動への支援

・毎年行われいる、名張地区民生児童協委員協議会による、「高齢者のつどい」の実施を支援しました。

(5)介護予防事業（1次予防事業）

健康相談

受付にて、希望者に血圧測定・健康相談に応じました

一般マシン・トレーニング教室

年間5クールに分け、1クール7回のコースで、運動器向上のため実施しました。今年度より、参加者の増加に対応して、月～金曜日のどの曜日にも実施するようにしました。

ヘルスアップ教室

心身ともに健康でいきいきと、生涯健康生活を目指すように、「料理教室」を実施しました。

健康チェックデー

4月と12月に、身体・体力測定を希望者に実施し、併せて健康相談を実施しました。

「私の健康カルテ」の発行

健康管理や介護予防への意識づけを目的に各介護予防事業時に希望者に発行しました。

歯科衛生士による歯科相談

歯科衛生士による、歯科相談を実施しました。（2回/年）

スクエアステップ教室（新）

高齢者の介護予防を目指して、昨年度の講演会、リーダー養成に引き続き、三重大学教育学部准教授、NPO法人スクエアステップ協会理事の重松良祐さんと連携して実施しました。また、リーダーが主体的に教室実施しました。 また、リーダーの活動支援を地域福祉課と連携して実施しました。

スクエアステップリーダー養成研修会（新）

スクエアステップ教室の実施のため、リーダーを養成して教室で活動いただきました。

脳の健康教室（新）

2次予防事業「お達者や脳教室」修了者の継続希望者を対象に認知機能向上のため、くもと連携して実施しました。

(6)介護予防事業（2次予防事業）

※2次予防事業対象者として特定された方を対象とした事業を、地域包括支援センターと連携、くもと連携、歯科医師会・歯科衛生士会、地域栄養士連絡協議会の協力を得て実施しました。

※地域包括支援センターと数回にわたり打ち合わせ、2次予防の事業についての協議を行い、今年度から認知症予防についてのプログラムをくもと連携して実施しました。修了生の要望に応じて継続して教室を1次予防（自主事業）で実施しました。また、運動機能向上プログラムの実施は、リピーターを含めた参加者増に対応して、H25年度からは、新規参加者のみとした事業展開に協働しました。

運動器の機能向上

「足腰ぱりぱり教室」

今年度から、新規参加者を対象として、マシンを活用し、運動器（特に下肢）機能を向上させ、転倒予防や自立力向上を図る教室を実施しました。

「足腰ぱりぱり教室」

OBのつどい

新規の参加者が多く参加できるようにするために、説明会を兼ねたOBの集いを地域包括支援センターに協働して実施しました。

口腔機能向上・栄養改善

「栄養ぱりぱり！健口教室」

集団教育の形式で1つの教室で、歯科医師、歯科衛生士、栄養士の協力を得て、口腔機能向上、栄養改善を図る教室を実施しました。

認知機能向上

「お達者や脳教室」

くもと連携して、簡単な読み書き・計算とサポーターさんとのコミュニケーションで認知機能の向上を目指した教室を実施しました。

説明会

参加対象者に教室説明会を地域包括支援センターに協働して実施しました。

サポーター養成研修会

教室で高齢者の学習を支援する学習サポーターを養成し、教室で活動しました。

施設の適切な維持管理及び経費節減への取組	経年劣化による機器の故障や施設の汚損が多くなってきたため、緊急性の高いものから補修等を行った。(大型冷蔵庫、浴室薬品注入装置、トイレナースコール等) また、設備等の不具合箇所について随時報告を行った。 水道光熱費については、引き続き、夏季使用電力の制御(デマンド監視)を継続して行い、各部屋に温度・湿度計を設置して節電に取り組んだ。
施設管理を的確に行う人員配置・職員研修等への取組	高齢者や障害者が利用させる社会福祉施設であり、日常業務における運営を保健師が主体となり、看護師、介護員(ヘルパー2級)、業務補助職員の4名を配属して、施設管理や相談援助などを行ないました。総合福祉センターの防災訓練に参加し、車椅子の避難誘導の方法の勉強会を行い、図書室からの出火を想定した訓練を行いました。 介護予防事業の実施においては、「介護予防運動指導員」の資格を持つ、保健師、介護員が担当しました。また「スクエアステップ指導員」の資格をもち、業務補助職員も「スクエアステップ教室」の開催に向けて、スクエアステップリーダーの資格を受けました。また、認知機能向上プログラム提供のため、「学習サポーター養成研修」を受けました。

3 施設設置者（名張市）評価

指定管理協定に基づく業務は適正に実施されています。
利用者が、安心して利用できるよう職員が細やかな配慮を行っており、施設内、特に浴室の見回り等、利用者の安全確保と事故防止に努めている。
また、職員が日常的に利用者の声を聞き、利用者のニーズにあった行事を企画、開催しており、啓発活動においても積極的に新しい方法を取り入れる等、利用者拡充の努力を行っている。
今後もより一層、利用者が充実した時間を過ごせるようサービス向上に努めていただきたい。

名張市老人福祉センター「ふれあい」の管理に関する業務の収支決算書(25年度)

(単位:円)

区分	項 目	計画額	決算額	内訳等
収 入	利用料金収入	3,515,000	3,508,900	施設利用料 3,508,900
	参加費収入	705,000	679,097	カラオケ参加費 679,097
	指定管理料収入	21,300,000	21,300,000	老人福祉センター指定管理料
	雑収入	10,000	4,770	公衆電話利用料金 4,770
	受取利息配当金収入	0	600	預金利息 600
	収入合計(A)	25,530,000	25,493,367	
支 出	人件費	4,471,000	4,439,798	職員俸給・賃金 3,173,083 法定福利費 584,056 職員手当 562,659 退職預金積立金 120,000
	事務費	447,000	405,991	福利厚生費 11,456 業務委託費 15,543 消耗品費 27,612 損害保険料(職員賠償) 9,815 通信運搬費 33,565 租税公課 308,000
	事業費	12,991,000	12,914,864	賃借料 485,670 パス運行委託 12,022,758 消耗品 134,589 教養娯楽費 102,464 損害保険料(利用者) 100,000 広報費 50,000 通信(NHK・ケーブル) 18,403 医薬品費 980
	管理費	8,851,000	8,742,348	ヘルストロン保守料 53,025 水道光熱費 6,881,433 風呂水質検査等 476,280 修繕費 261,765 清掃委託料 1,069,845 (冷凍冷蔵庫、浴室薬品注入装置他)
	雑損失	0	1	9/11施設利用料過不足
	特定預金積立支	644,000	1,202,856	
	支出合計(B)	27,404,000	27,705,858	
収支 (A)-(B)		△ 1,874,000	△ 2,212,491	